

## 夏の節電プロジェクト

# 人と人のつながりから生まれた4,000世帯の節電ムーブメント

滋賀県地球温暖化防止活動推進センターでは、2012年度から2年連続で「おうみ節電アクションプロジェクト」として夏の節電に取り組みました。

これは、滋賀県地球温暖化防止活動推進員（以下、「推進員」）の皆様が中心となり、広く県民に家庭での節電を呼びかける取り組みで、2012年度は4,229世帯、2013年度は3,644世帯（約半数は前年度からの継続参加）と多くの方々にご参加いただくことができました。この数は県内世帯数の約1%で、このような参加率の高い取り組みは全国的にも稀で、非常に貴重なデータを得ることができ、多面的な分析を行うことができました。ご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

### 約4,000世帯の参加を得られた背景

本プロジェクトに約4,000世帯の参加を得ることができた背景には、「人と人のネットワーク」と「熱意あるキーパーソンの活躍」がありました。単にチラシを配り節電を呼びかけただけでは、このように多くの方々のご参加は不可能だったでしょう。

本プロジェクト推進にあたって地域やコミュニティの核となって活動していただいたのは、推進員の皆様をはじめNPO法人滋賀環境カウンセラー協会、滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル、立命館大学ecoKA、企業のCSR担当者、自治会長や地域サークルの世話人等の方々などです。このようなキーパーソンが、それぞれの生活・活動の場である地域・コミュニティ・企業等で熱意をもって参加を呼びかけたことで、節電行動の輪が広がり、多くの方々の確実な節電実施と節電記録の提出に結びつきました。まさに人と人のネットワークがプロジェクトの成功につながったといえます。

2014年2月11日に開催した報告会後の表彰式では、自治会・団体・企業等で節電に取り組まれた皆様の貢献をたたえ今後の節電への取り組みをご期待して感謝状を贈呈し、その中でも特に功績の顕著な方々に特別表彰として記念楯を贈呈しました（感謝状および特別表彰の記念楯は力石理事長のご寄付により制作いたしました）。



「2013夏 おうみ節電アクションプロジェクトII」表彰式

### 2013年度の節電・CO<sub>2</sub>削減効果は約200t-CO<sub>2</sub>

プロジェクト実施の結果、CO<sub>2</sub>排出削減効果は、平成22年比推計値では199.5t-CO<sub>2</sub>（平成24年比17.5t-CO<sub>2</sub>）となりました。滋賀県における家庭用電力消費量は平成22年比で10.63%の削減でしたが、本プロジェクト参加世帯は同14.53%の削減と推定され、非常に高い節電効果を得ることができました。

更に今年は1人（1家庭）1台のエアコン使用をやめて自治会館など地域の身近な施設に集まって過ごす「クールシェア」を実施しました。クールシェアの実施回数は123回、延べ3,143世帯の参加を得ました。こちらの取り組みでも0.5173t-CO<sub>2</sub>の削減となりました。



報告会 公開座談会

### 身構えずに「気がつけばクールシェア」がちょうどいい

2013年度のプロジェクトでは、新たな取り組みとして地域の身近な施設（自治会館等）でクールシェアを実施しました。

報告会で実施した公開座談会では、クールシェアの企画・運営に携わった方々に参加いただき、地域・コミュニティ単位で節電や省エネ、温暖化防止に取り組んでいただくための具体的な方策について、実例を交えてお話しいただきました。

節電ということを前面に出すのではなく、参加対象者の興味・関心に合わせた催しで多くの方々に集まっていただき、楽しく過ごすことが結果的に節電につながり、地域の絆も深まるとの発言がありました。知らないうちに環境のためになる行動ができるような取り組みとして、「気がつけばクールシェア」というキャッチフレーズが生まれ、参加者の共感を得ました。

なお、成果をまとめた報告書概要版はホームページにも掲載しております。

(<http://www.ohmi.or.jp/ondanka/01center/0100mailmagazine/img/2013hokokugaiyo-4c.pdf>)